

専徳寺報

第467号

令和4年6月3日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

ついでに礼拝(月のはじめは礼拝日)

7月1日

午前9時より

45分間

※8月はお休みです

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

①<http://sentokuji-iwakuni.net/>

②動画ちゃんねる「ひかりといのちきわみなぎ」

専徳寺

検索



雨安居(仏婦法座)

御案内

しつとりとした慈雨の中、ご一緒にお聴聞いたしまし
しょう。男性の参詣もお待ちしております。

日程

6月20日(月)

昼 1時30分～3時30分

ご講師

本願寺布教使

赤井 智顕 師 (西宮市)

※初めてご来講賜ります。

- ・マスク着用をお願いします。
- ・検温をしておこしください。
- ・飲み物は、ご持参ください。
- ・本堂(50名)の席が一杯になっても、庫裏でスクリーンにてお聴聞ができます。

●参拝セット(念珠・聖典・門徒式章・聴聞カード)
どうぞお持ちください。



フルトップを回収します

ご参拝の際で結構です。
ご協力よろしくお願
いいたします。



如来・人・言葉 126

物語 雑感

藤枝 宏壽 (越前市押田 了慶寺)

ふとした機縁で、「ナラティブ・ペイスト・メディシン」(①NB
BM)(物語に基づく医療) という医学の新しい分野があるこ
とを知った。医学には素人の私だから、断片的な知識でしかな
いことをまずお詫びするが、およそ次のようなことであるらしい。
普通の医学は「エビデンス・ペイスト・メディシン」(②EBM)
(証拠に基づいた医療)で、検査結果(証拠)を基にして手術
や投薬等の治療をする、いわゆる近代科学的な医療であるが、
難病・死病・高齢など治療困難になる場合が往々にして起き、
医師も患者も限界に達する。

それに対して①の方は、患者に自分の病気について、どのよ
うな症状なのか、どのような生活をしていってそうなったのかな
どと、話をしてもらう。すると、生活習慣や家族・人間関係な
ど病気の背景が医師にもよくわかり、それに応じた治療ができ
る。また、患者は自分の病気の苦しみを話したことで、気分が
楽になり、医師に理解してもらったという信頼感がわき、治療
効果も上がる。

特に、がんの末期になったような場合、患者に自分の生涯を
語ってもらう(或いは書いてもらう)ことによって、人生(心)
の整理ができる。一生の間いろんなことがあったが、この病気
もその一コマである。と我が人生を見直すことができる。そし
て最後を安らかに迎えられるケースがよくあるというのである。
これは正に宗教の関わるべき場面。ホスピスとかピハラーで
は、その「物語り」が行われているはずだ。「人生のやり直し
はできないが、見直すことはできる」(金子大榮師)の実践で
ある。

しかし、その見直しには、見直す「視点」がなければならない。
目先の事象にやっつきになっている(例えば、「自
分はこんな苦しい」)というのに、近親の〇〇は
見舞いにも来ない」というような自己中心的な
近視的視点では、人生全体を見直す視点(仏教
でいう「遠観」)は見出せないであろう。

真の宗教は正にその人生を見直す視点であ
り、人生の意味を示唆する教えである。個々人



専徳寺納骨堂受付中

2021 (令和3) 年度 専徳寺仏教婦人会決算報告

収入 2021/04/01~2022/3/31

費目	決算額
1 専徳寺門徒講金	80,000
2 貯金利息	6
3 繰越金	655,073
歳入合計	735,079

支出

費目	決算額
1 仏婦法座	110,146
2 めぐみ本代	15,600
3 仏婦年会費	8,000
4 総会研修会費	5,000
岩国組仏婦総会	2,000
岩国組仏婦連盟秋季研修会	3,000
5 交通費	14,000
6 交際費	50,000
お歳暮	10,000
ご香典、お見舞い	40,000
7 消耗品	360
歳出合計	203,106

収入合計	735,079
支出合計	203,106
差引額	531,973

2021 (令和3) 年度 ダーナ収支会計報告

収入 2021/04/01~2022/3/31

費目	決算額
1 収入	11,635
2 貯金利息	4
3 繰越金	442,780
歳入合計	454,419

支出

費目	決算額
1 ダーナ	20,000
歳出合計	20,000

収入合計	454,419
支出合計	20,000
差引額	434,419

上記収支会計は適正に処理されていることを認めます

令和4年5月21日

三井初美 岩中みどり

の物語は、宗教という「大いなる物語」の一部となったときに完結するのだ。

「法蔵菩薩が如宝海から形を現わして、十方の苦悩の有情を救わんという大誓願（本願）を発し、長大な思惟・修行を成就して、南無阿彌陀仏となられた。この本願を信じて念仏申せば、浄土に生まれて仏のさとりを得る。この仏に成ることこそ人間に生まれた目的なのだ」という「大いなる物語」がある。

この大いなる物語はいつも聞き慣れていることが大事。ちようど子どもが同じお伽噺を何度も聞いて覚えており、しかも聞く度に新たに興奮するように、この「法蔵物語」がしつかり身につけている人は、さて、わが身個人の人生物語は、「苦悩の有情」というところにすっぽり入るのだと、難なく気付くであろう。そして「大いなる物語」の中に救われていくわが人生物語が完結するのである。

「物語」は繰り返し、繰り返し語るものである。単なる知識ならば一度告げればよい。歎異抄でも「よって故親鸞聖人御物語の趣、耳の底に留むるところいささかこれをしるす」と唯円房が言っているように、親鸞聖人も念仏往生のこと、

法然上人との出遇い、法難のことなどを、繰り返し「物語」られたに違いない。「聖人のつねの仰せ」である。繰り返しということ、人間存在の呼吸・いのちの息吹である。念仏も繰り返し返すもの、一度一度を初事として。理屈ならば一度ですむ。

生きているかぎり、大いなる物語、その要を「南無阿彌陀仏」と繰り返し聞かせていただく。繰り返し、繰り返し、有縁の人々に物語つていこう。

〔群萌〕No. 190より

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀動修〕



ご恩を偲びて〔法事動修〕(4月26日~6月3日)

おめでとうございます

【初参式】

5月2日

ちゃん

慈光の中、

健やかに

法物下附式(入仏式)

お給仕の喜び、一入に存じます。

